

世界遺産 浮島の街 ベネチア

2014年5月2日
NHKテレビ

ベネチアは6世紀に、120の島からなる干潟に作られた街。
およそ400の橋と150をこえる大小の運河で結ばれている。

ヴェネツィアは、ゲルマン族の進入から逃れるために、
当時湿地帯であった場所に街を作ったのが始まりといわれている。
その後、海洋貿易での立国を目指した。



ベネチアは、常に治水対策が重要課題であった。
近年は、丸太の杭を潟に打ち付けてそれを建物の土台にする工法
の最大の欠点(時間が経つにつれ沈下する事を免れない)と、
地下水の汲み上げによる地盤沈下が大問題となっている。

更にそれに追い討ちを掛けるように地球温暖化による海面上昇により、
水没の危機にさらされている。

干潟(らぐーな)が自然の要塞になり外敵から街を護ってきた。
水は城壁の役割をはたしてくれ、干潟に手を加えてはいけないと定められている。
干潟の船が通れる道は限られている。

知らない外国の船がベネチアに着こうとしても、途中 座礁してしまう。

土地の人は、限られた船の通り道をマークをつけてわかるようにしてある。
外敵がきそうなときは、そのマークを外す。

ヴェネツィアの中心街にある建築物以外にも、
ヴェネツィアン・グラスで有名なムラーノ島、レース編みで有名なブラーノ島、
島全体が墓所となっているサン・ミケーレ島も世界遺産物件として登録されている。